

令和 2 年 5 月 28 日現在

機関番号：17701

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2016～2019

課題番号：16H03475

研究課題名(和文) 鹿児島県の歴史資料ネットワークの実践と展開

研究課題名(英文) Research on the Activities and Future Projects of Kagoshima Historical Resources Preservation Network

研究代表者

丹羽 謙治 (NIWA, Kenji)

鹿児島大学・法文教育学域法文学系・教授

研究者番号：40264460

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 12,500,000円

研究成果の概要(和文)：鹿児島県内の歴史的資料の所在調査、デジタルカメラによる画像の撮影、ハードディスクへの保存、目録や翻刻集の制作といった、来るべき災害に備える基礎的な作業を行った。また、先行する史料防災ネットワークとの交流を行い、その成果を吸収しながら、宮崎資料ネットワークとの協力関係を築き、資料に関わる専門家の数が限られているなかでいかに災害に備えるかについて模索する取り組みとして、襖剥がしや災害対策として行われているDIG (Disaster Image Games) ワークショップ、シンポジウムを開催し、資料に関わる専門家だけでなく広く一般市民に向けて資料防災の重要性を訴えた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

他県に比べ、民間所在の歴史資料保存の重要性の認知度が低く、この四半世紀大きな災害から免れている鹿児島県にあって、資料に何か起こった場合に機動的な対応ができる民間組織が 鹿児島歴史資料防災ネットワークが、人間文化研究機構や他の資料ネットワークの応援をえて正式に発足したことが第一の成果である。そして人材の少なさを克服するために広域連携を模索しつつ、文書の所在調査、襖から古文書を取り出すワークショップ、DIGワークショップやシンポジウムを通じて、ボランティアとして地元の資料を救うことに寄与したいという人が増えてきている点が挙げられる。

研究成果の概要(英文)：We conducted a research focusing on the following basic investigations: The determination of the whereabouts of rare archives preserved in Kagoshima prefecture, photographing work of archives with digital cameras, the storage of the files needed to complete our research in hard disks, compilation of a list and republication, all of which are crucial to prepare against natural disasters. We also decided to promote a collaborative relationship with other network divisions which are operating in the preservation of rare archives. In particular, we held workshops removing the underlay of fusuma, DIG (Disaster Image Games) workshops and a public symposium collaborating with Miyazaki Historical Resources Network on the effective ways to prepare for disasters in the limited conditions as the lack of specialists in the preservation of archives and appealed to the public for the paramount importance of protecting a wide range of archives.

研究分野：人文学

キーワード：資料保存 資料ネットワーク DIGワークショップ

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

中世以来の島津家の長い歴史を持つ鹿児島県において、これまで積み重ねた歴史の長さやその価値に比べ、資料保存に対する意識は決して高いとはいえない。鹿児島県内の各自治体の教育委員会文化財担当者でも、登録文化財の所在情報は集めても、民間所在資料の情報については全く関心が払われていないし、そもそもそれが「地域歴史遺産」であることすら認識していないのが現状である。このような状況下で近年多発傾向にある自然災害に見舞われた場合、一般家庭に所蔵されている歴史資料はなすすべもなく失われることが予想される。鹿児島歴史資料防災ネットワーク(準備会)では、資料の中性紙封筒への詰め替え、デジタルカメラによる撮影、目録の作成などといった歴史資料保全活動を進めてきた。

来るべき災害に備え、いわゆる「予防ネット」として上記ネットワーク機能の充実と地域における浸透と定着を図っていく必要性が高まっている。

2. 研究の目的

鹿児島歴史資料防災ネットワークは、資料調査や整理を基礎作業にしながら、地域に対して能動的に資料に関する意識改革を訴え、働きかける「実践的な役割」を担う必要性が高まっている。大学を中心として地域歴史資料の保全ネットワークを整備し、自治体や地域団体、企業等、さまざまな人的ネットワークの拠点となりつつ、各地域の市民が参加する地域に根差したネットワークの叢生を促し、日常的な歴史資料の保全活動の支援していく体制を作り、機能強化を図る。

また、資料ネットワーク間の連携を強化し、ワークショップなどイベントの合同開催や情報交換などを通じて、少人数でより大きな防災効果をいかに実現できるかについて具体的な方策を探る。

3. 研究の方法

従来行ってきた資料の調査、デジタルカメラによる撮影および保存、目録作成など基礎的な作業を継続しながら次の課題に取り組む。

- (1)桜島や口之永良部島等の火山噴火による危険性が高い緊急性を要する歴史資料の所在悉皆調査を行う。
- (2)集中豪雨や台風被害の大きい島嶼部における歴史資料レスキューを行い、地元の郷土史家との連携の強化を図る。
- (3)水損・虫損などによる歴史資料の修復・修繕技術を習得する。
- (4)当該地域の資料保存の歴史の明確化、資料を守ってきた人々の顕彰を行う。
- (5)鹿児島大学附属図書館の学術コンテンツ係と連携した鹿児島県の歴史資料のデータベース、デジタル化した資料の公開による情報発信を行う。
- (6)市民参加型の歴史資料の保全・修復等のワークショップ、シンポジウム開催等による地域社会へ還元する。

4. 研究成果

前年度申請が認められ、2016年度より鹿児島県の歴史資料防災ネットワークの設立とその円滑な運用を目指して、従来の活動 - 県内各地の資料状況の把握・デジタルカメラによる撮影・資料目録の作成など に、新たな活動を付加して実践した。

(1) 資料レスキューおよび資料整理・目録作成

デジタルカメラによる撮影、中性紙袋への保存、目録作成の対象資料は、大武文庫、谷口家資料、木脇家資料、敬天舎資料、伊佐市市来家文書、南大隅町下村家文書、出水市麓地区、徳之島、指宿市のT家の資料、南九州市のI神社の資料などである(予備調査の段階で止まっているものを含む)。虫損や癒着が甚だしいものが多

く、鹿児島大学附属図書館で醸蒸を行い、大学から借りたプロジェクト研究室にて整理、目録作成を行ったが、すべて完了（その後公開）するには今しばらく時間が必要である。

一方、赤外線カメラを導入して肉眼では明らかな文字資料の解読を行うなど実験的な活動も行った（山内利秋・佐藤宏之・深瀬浩三・丹羽謙治「報告 赤外線写真撮影によって確認されたプロレタリア画家川越篤のサイン 宮崎県での保全資料調査から」、『九州保健福祉大学博物館学年報』8、2019年）

（2） 教育的活動

2016年度に鹿児島県出水市の中学校の授業の中に資料防災を取り入れる活動を組み入れた（佐藤宏之・土居祐綺・矢野真帆「「ふるさとの記憶」を災害から守り、未来につなぐための教育普及活動 Part Ⅱ」、『鹿児島大学地域防災教育研究センター平成29年度報告書』2018年）。

（3） 宮崎資料ネットワークとの連携事業の開催

襖剥がしのワークショップの開催

2017年4月22日（土）に鹿児島県民交流センターにおいて、「フスマから歴史を取り出してみよう」ワークショップを宮崎史料ネットとの共催で開催した。小学生から学生、社会人30名が襖から資料を取り出す作業に従事した。N Kニュースや南日本新聞のコラムにも取り上げられ、好評であった。また、鹿児島大学において襖剥がしと和紙資料の応急手当のワークショップを開催した。

DIG(Disaster Image Games)ワークショップの開催

2018年9月26日・27日、宮崎市と日向市において南海トラフ地震による津波を想定したDIG(Disaster Image Games)ワークショップを行った。学生およびヘリテイジマネージャーの参加もあり、専門家の立場から貴重な助言や指摘を受けることができた。またコメンテーターとして熊本地震を経験された熊本博物館の甲斐由香里氏を招き、場面場面での留意点などの指摘をお願いした。その結果、災害を想定したイメージトレーニングの有効性をそれぞれの参加者が感得することができた（当日実施したアンケート調査より）。続いて、2019年1月26日・27日、場所を鹿児島県出水市に移し、水害を想定したDIGワークショップを開催。宮崎史料ネットのメンバーおよび学生も参加した。一方の県に災害が発生した際に隣県の史料ネットのメンバーがどのように動くことができるか、また動くべきであるかを予め想定しておくことの重要性、また限界を知っておくことの重要性を認識する機会となった。さらに、2020年2月1日・2日、霧島市国分シビックセンターにおいて、霧島市教育委員会の協力を得て水害を想定しDIGワークショップを開催した。

資料防災にかかるフォーラム・シンポジウムの開催

人間文化研究機構と鹿児島大学の間で協定が締結され、2018年9月29日、第33回人文機構シンポジウム 鹿児島大学・人間文化研究機構協定締結記念シンポジウム『鹿児島の歴史再発見 - 新しい地域文化像を求めて -』が鹿児島大学郡元キャンパスで開催された。本研究の分担者2名が報告ならびにシンポジウムのパネラーとな

り発表を行った。

また、科研費の研究の仕上げとして、他地域の活動を知るとともに広域連携を図ることを目的として、2019年12月7日、フォーラム「災害から歴史資料・文化財をまもるために何ができるか in Kagoshima」を鹿児島大学で開催した。愛媛県歴史文化博物館の学芸員甲斐未希子氏、大分県教育庁文化課参事三重野誠氏を迎え、研究分担者である山内利秋氏と代表者の丹羽謙治の報告、佐藤宏之氏の司会で表題の「災害から歴史資料・文化財をまもるために何ができるか」をめぐって議論を行った（発表の概要は下記報告書に掲載）。

（４） 刊行物

科研費を用いて以下の資料集・報告書などを作成した。

丹羽謙治編『鹿児島大学農学部 谷口家文書 谷口熊之助来簡集（一）』_α、2019年3月

丹羽謙治編『平成28年度～令和元年度 日本学術振興会科学研究費補助金 基盤研究（B）研究成果報告書「鹿児島県の歴史資料ネットワークの実践と展開」』_α、2020年3月

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計19件（うち査読付論文 1件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 6件）

1. 著者名 屋良健一郎	4. 巻 -
2. 論文標題 近世における琉球人の日本漂着	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 島村幸一編『琉球船漂着者の「聞書」世界』	6. 最初と最後の頁 pp.349-372
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 屋良健一郎	4. 巻 20
2. 論文標題 近世種子島の資料における琉球関係記事	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 立正大学人文科学研究所年報 別冊	6. 最初と最後の頁 pp.17-27
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山内利秋	4. 巻 9
2. 論文標題 西日本豪雨災害における写真の救済とその意義 市民レベルでの資料保存を目指して	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 九州保健福祉大学博物館学年報	6. 最初と最後の頁 pp.23-32
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 日隈正守	4. 巻 71
2. 論文標題 大隅国祢寝院における荘園公領制形成過程に関する一考察	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 鹿児島大学教育学部研究紀要 人文・社会科学編	6. 最初と最後の頁 pp.1-8
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高津孝	4. 巻
2. 論文標題 曾榮著述考略 本草の部	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 奄美群島の歴史文化社会的多様性	6. 最初と最後の頁 pp.50-69
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高津孝	4. 巻
2. 論文標題 交錯する視線 南西諸島の博物学	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 医学・科学・博物 東アジア古典籍の世界	6. 最初と最後の頁 pp.279-302
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 丹羽謙治	4. 巻 86
2. 論文標題 資料紹介 『昭和六年木脇藤次郎日記(三)』	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 鹿児島大学法文学部紀要 人文学科論集	6. 最初と最後の頁 pp.155-168
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 日隈正守	4. 巻 7
2. 論文標題 平安後期大隅国帖佐郷に関する一考察	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『始良市誌史料』	6. 最初と最後の頁 pp.303-311
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山内 利秋・佐藤 宏之・深瀬 浩三・丹羽 謙治	4. 巻 8
2. 論文標題 報告：赤外線写真撮影によって確認されたプロレタリア画家川越篤のサイン - 宮崎県での保全資料調査から -	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 九州保健福祉大学博物館学年報	6. 最初と最後の頁 pp.13-24
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 丹羽謙治	4. 巻 16
2. 論文標題 上月行敬筆『琉球人行粧之図』『琉球人往来筋賑之図』について 鹿児島大学附属図書館本と鹿児島県立図書館本のあいだ	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 雅俗	6. 最初と最後の頁 pp.61-76
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 丹羽謙治	4. 巻 85
2. 論文標題 資料紹介 『昭和六年木脇藤次郎日記』 (二)	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 鹿児島大学法文学部紀要 人文学科論集	6. 最初と最後の頁 pp.51-73
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 山内利秋	4. 巻 7
2. 論文標題 災害の経過と博物館学教育 - 熊本地震から1年が経過して、隣接した地域は災害をどのように考えるべきか	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 九州保健福祉大学博物館学年報	6. 最初と最後の頁 pp.49-60
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 佐藤宏之	4. 巻 -
2. 論文標題 地域の戦争の 記憶 を未来につなぐ 平和を希求する心を育むために	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 第4回空襲・戦災・戦争遺跡を考える九州・山口地区交流会報告集	6. 最初と最後の頁 pp.19-25
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高津孝	4. 巻 22
2. 論文標題 琉球的出版文化與琉球漢詩集	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 人文中國學報	6. 最初と最後の頁 279-303
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高津孝	4. 巻 198
2. 論文標題 琉球の編年体史書	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 アジア遊学	6. 最初と最後の頁 149-160
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高津孝	4. 巻 -
2. 論文標題 琉球における漢籍受容と漢文の学習	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 福島金治編 『生活と文化の歴史学 9 学芸と文芸』	6. 最初と最後の頁 504-525
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 丹羽謙治	4. 巻 84
2. 論文標題 資料紹介『昭和六年木脇藤次郎日記』(一)	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 鹿児島大学法文学部紀要 人文学科論集	6. 最初と最後の頁 1-20
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 佐藤宏之・土居祐綺	4. 巻 -
2. 論文標題 「ふるさとの記憶」を災害から守り、未来につなぐための教育普及活動	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 鹿児島大学地域防災教育研究センター 平成28年度報告書	6. 最初と最後の頁 69-76
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 山内利秋	4. 巻 6
2. 論文標題 博物館学教育で災害を伝える事 2016年熊本地震を経て、これからの博物館に関わる人材の養成を考える	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 九州保健福祉大学博物館学年報	6. 最初と最後の頁 23-56
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計31件(うち招待講演 0件/うち国際学会 0件)

1. 発表者名 山内利秋
2. 発表標題 災害時資料救済・保全を想定したシミュレーションDIG(オプション企画)
3. 学会等名 第6回 全国史料ネット研究交流集会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 丹羽謙治
2. 発表標題 「鹿児島歴史資料防災ネットワーク」の活動（ポスター発表）
3. 学会等名 第6回 全国史料ネット研究交流集会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 高津孝
2. 発表標題 『質問本草』について
3. 学会等名 ～西原本がいざなう～『質問本草』講演会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 金井静香
2. 発表標題 中世末期～近世初頭における島津氏の和歌と寺院 島津義弘及び不断光院を事例として
3. 学会等名 尚古集成館講座
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 山内利秋
2. 発表標題 災害に備えた資料保全シミュレーションを実践する
3. 学会等名 災害から歴史資料・文化財を守るために何ができるか in Kagoshima（主催 鹿児島歴史資料防災ネットワーク・宮崎歴史資料ネットワーク）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 佐藤宏之
2. 発表標題 歴史から読み解く災害への対応力・復元力
3. 学会等名 第29回環境地質学シンポジウム
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 高津孝
2. 発表標題 薩摩の博物学
3. 学会等名 令和元年度 鹿児島大学附属図書館貴重書公開 新中央図書館オープン25周年記念 「平成」新収 未公開貴重書展 記念講演会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 屋良健一郎
2. 発表標題 和歌・和文から見た近世の琉球と日本
3. 学会等名 沖縄文化協会公開研究発表会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 屋良健一郎
2. 発表標題 漂着から見た近世の琉球と日本
3. 学会等名 説話文学会2019年度9月例会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 丹羽謙治
2. 発表標題 地域の資料防災システムの構築 資料の保存・公開・学習の循環をつくる
3. 学会等名 第69回西日本国語国文学会熊本大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 深瀬浩三
2. 発表標題 鹿児島における資料保全の取り組み
3. 学会等名 第2回歴史文化資料保全西日本大学協議会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 安田恭子・米田耕司・池辺伸一郎・山内利秋
2. 発表標題 シンポジウム『文化資源としてのミュージアム』
3. 学会等名 日本ミュージアム・マネジメント学会第24回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 山内利秋
2. 発表標題 地域のミュージアムにおける防災と文化財等のレスキューについて
3. 学会等名 令和元年度今治市内文化財調査・保存指導研修（主催 今治市教育委員会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 山内利秋
2. 発表標題 誰のために地域社会の資料はまもられるのか？
3. 学会等名 セッション「JOSS 2019 -地域に現存する文化財の継承とオープンな情報資源化に向けた取り組み」『JAPAN OPEN SCIENCE SUMMIT 2019』
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 後藤 真・奥村 弘・山内 利秋・佐藤 宏之・富田 千夏・天野 真志
2. 発表標題 ディスカッション「鹿児島県の歴史再発見 - 新しい地域文化像を求めて - 」
3. 学会等名 第33回人文機構シンポジウム鹿児島大学・人間文化研究機構協定締結記念シンポジウム『鹿児島県の歴史再発見 - 新しい地域文化像を求めて - 』
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 松山 真弓・山内 利秋
2. 発表標題 「隣接地域間での連携について考える」
3. 学会等名 第5回全国史料ネット研究交流集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 山内 利秋・天野 真志
2. 発表標題 「ワークショップ - 災害への備えと歴史文化資料の救済を考える - 」
3. 学会等名 『地域の歴史文化史料の救済と連携』（国立歴史民俗博物館主催）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 久留島 浩・小関 悠一郎・山内 利秋・多和田 雅保
2. 発表標題 ディスカッション「地域の歴史文化資料の救済と連携」
3. 学会等名 『地域の歴史文化資料の救済と連携』（国立歴史民俗博物館主催）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 山内 利秋
2. 発表標題 「市民参加を重視した宮崎歴史資料ネットワークでの襖下張りの剥離方法」
3. 学会等名 『公開フォーラム 被災地と史料をつなぐ 歴史資料の被災状況と保存技術の共有 - 』
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 佐藤宏之
2. 発表標題 「鹿児島歴史資料防災ネットワーク、再始動 少ない人数で広範囲な地域の歴史資料を保全するために 」
3. 学会等名 第5回全国史料ネット研究交流集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 深瀬浩三
2. 発表標題 「歴史GISを構築・活用した歴史資料防災・保全活動プログラムの開発にむけた取り組み」
3. 学会等名 第5回全国史料ネット研究交流集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 大高幸・可児光生・山内利秋・江水是仁
2. 発表標題 シンポジウム(指定討論)多様化する社会とミュージアム 文化創造の原動力となるミュージアム
3. 学会等名 日本ミュージアム・マネジメント学会第22回大会(東京家政大学)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 山内利秋
2. 発表標題 南海トラフ地震に向けた宮崎歴史資料ネットワークの活動
3. 学会等名 第3回全国史料ネット研究交流集会 - 愛媛 -
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 佐藤宏之
2. 発表標題 地域の歴史を守り、未来に伝えるー歴史資料の保全と戦争の記憶ー
3. 学会等名 鹿児島県出水市立出水中学校講話会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 佐藤宏之
2. 発表標題 熊本地震後の資料保全活動について
3. 学会等名 熊本地震に関する学内情報交換会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 佐藤宏之
2. 発表標題 歴史災害を防災に活かす
3. 学会等名 口永良部島2015噴火災害対応報告会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 山内利秋
2. 発表標題 中心市街地コミュニティにおける小規模なミュージアム機能の活用と評価
3. 学会等名 ミュージアムマネジメント学会第21回大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 深瀬浩三
2. 発表標題 歴史的文化的財の保全のためのマッピング化の試み 文化財地理情報データベースの利用
3. 学会等名 鹿児島大学地域防災教育センター第13回鹿大防災セミナー
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 丹羽謙治
2. 発表標題 加藤雄吉の業績 文学と資料編纂のあいだ
3. 学会等名 平成28年度鹿児島大学法文学部国語国文学会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 山内利秋
2. 発表標題 南海トラフ地震に向けた宮崎歴史資料ネットワークの活動
3. 学会等名 第3回全国史料ネット研究交流集会
4. 発表年 2016年

〔図書〕 計3件

1. 著者名 丹羽謙治編	4. 発行年 2019年
2. 出版社 鹿児島大学法文学部日本近世文学研究室	5. 総ページ数 125
3. 書名 鹿児島大学農学部 谷口家文書 谷口熊之助来簡集(一)	

1. 著者名 安斎 正人、山内利秋ほか39名	4. 発行年 2017年
2. 出版社 同成社	5. 総ページ数 1036
3. 書名 理論考古学の実践	

1. 著者名 佐藤宏之	4. 発行年 2017年
2. 出版社 北斗書房	5. 総ページ数 91
3. 書名 『自然災害と共に生きる－近世種子島の気候変動と地域社会』	

〔産業財産権〕

〔その他〕

鹿児島歴史資料防災ネットワーク
<http://kagoshima-shiryounet.seesaa.net/>
 鹿児島歴史資料防災ネットワーク
<http://siryo-net.jp/other/kagoshima-net-blog/>
 鹿児島資料防災ネット(準備会)
<http://kagoshima-shiryounet.seesaa.net/>

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	佐藤 宏之 (SATO Hiroyuki) (50599339)	鹿児島大学・法文教育学域教育学系・准教授 (17701)	
研究分担者	深瀬 浩三 (FUKASE Kozo) (50631884)	鹿児島大学・法文教育学域教育学系・准教授 (17701)	
研究分担者	高津 孝 (TAKATSU Takashi) (70206770)	鹿児島大学・法文教育学域法文学系・教授 (17701)	
研究分担者	日隈 正守 (HINOKUMA Masamori) (70260750)	鹿児島大学・法文教育学域教育学系・教授 (17701)	
研究分担者	金井 静香 (KANAI Shizuka) (30295232)	鹿児島大学・法文教育学域法文学系・教授 (17701)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分担者	山内 利秋 (YAMAUCHI Toshiaki) (20351942)	九州保健福祉大学・薬学部・准教授 (37604)	
研究 分担者	屋良 健一郎 (YARA Kenichiro) (40710158)	名城大学・国際学部・上級准教授 (28003)	
研究 分担者	山田 浩世 (YAMADA Kosei) (00626046)	沖縄県立芸術大学・付置研究所・研究員 (28001)	